

製品名: CAMKIV (19K4) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07891**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:5000-1:50000, ICC/IF 1:20-1:50
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	CAMK4
別名	CAM kinase 4; CAM kinase GR; CAM kinase IV; CAM kinase-GR; CaMK 4; CAMK GR; CaMK IV; Camk4; CaMKGR; IV; KCC4_HUMAN;
遺伝子 ID	814.0
SwissProt ID	Q16566
免疫原	ヒト CAMKIV の合成ペプチド

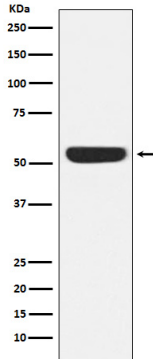
背景

カルシウム/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼは、カルシウム誘導性シグナル伝達カスケードに属すると考えられています。転写調節に関与している可能性があります。微小管ダイナミクスの調節にも関与している可能性があります。in vitro では、CREB1、CREBBP、PRM2、MEF2A、MEF2D、およびSTMN1/OP18 をリン酸化します。カルシウム誘導性 CaMKK-CaMK4 シグナル伝達カスケードにおいて機能するカルシウム/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼは、主にリン酸化によって、免疫応答、炎症、および記憶の強化において極めて重要な役割を果たす CREB1、MEF2D、JUN、および RORA などの転写活性化因子の活性を制御します。胸腺では、T 細胞の発生過程において CD4(+)/CD8(+) 二重陽性胸腺細胞の選択閾値を制御します。CD4 メモリー T 細胞において、T 細胞抗原受容体 (TCR) シグナル伝達を IL2、IFNG、IL4 の産生にリンクさせる (CREB および MEF2 の調節を介して)。破骨細胞および樹状細胞 (DC) の分化および生存段階を調節する。TLR4 と BCL2 の一時的発現の調節をリンクさせることで DC の生存を媒介する。海馬ニューロン核において転写活性化因子 CREB1 の「Ser-133」をリン酸化して、海馬における記憶の定着と長期増強 (LTP) に寄与する。MAP キナーゼ MAPK1/ERK2、MAPK8/JNK1、MAPK14/p38 を活性化し、ELK1 および ATF2 のリン酸化を介して転写を刺激する。CREBBP、PRM2、MEF2A、STMN1/OP18 を in vitro でリン酸化することもできます。

研究分野

神経科学

画像データ



Jurkat 細胞溶解物における CAMKIV 発現のウェスタン ブロット分析。